世界のワイン生産量、4年連続で歴史的低水準近くにとどまる見通し

OIVは2026年の世界のワイン生産量を2億2,000万～2億3,000万ヘクトリットルと推計。異常気象、水ストレス、需要低迷が影響。

2026年11月18日（水）



国際ブドウ・ワイン機構（OIV）は11月18日水曜日、2026年の世界のワイン生産量について、異常気象や水ストレスに加え、需要の低迷に合わせてブドウ畑の面積が引き続き調整されていることから、近年の低水準に近い水準にとどまる見通しだと発表した。

2026年の収穫年に関する初の推計で、OIVは世界のワイン生産量を2億2,000万～2億3,000万ヘクトリットル、中央値を2億2,500万ヘクトリットルと見積もった。2025年の推定生産量2億2,700万ヘクトリットルとおおむね同水準で、5年平均を約7%下回る。推計どおりとなれば、世界の生産量は4年連続で平均を下回ることになる。

OIVによると、この結果には気候変動による打撃と市場の圧力が複合的に影響している。熱波、干ばつ、霜害が主要な生産地域の多くで収量を押し下げた一方、世界的なワイン消費の鈍化や消費者の嗜好の変化も、生産や収穫に関する判断に影響した。同機構は、こうした変化に生産者が対応するなか、世界のブドウ畑の面積は2020年以降、約4.8%縮小したとしている。

欧州は世界のワイン生産の中心であり続けたものの、地域全体では今年も収穫量が低迷した。欧州連合（EU）の生産量は約1億3,700万ヘクトリットルと推定され、2025年比で1%増加する一方、5年平均をなお6%下回った。OIVによると、推計が確定すれば、2024年、2025年、2026年の収穫量は、EUにとって21世紀に入ってからの最少記録の上位3年となる。

OIVによると、西欧では2026年、観測史上最も暑い夏となった。長引く高温と水資源の不足により果粒の生育が妨げられ、多くの栽培家が収穫を前倒しした。春の霜も一部のブドウ畑に被害をもたらした。

イタリアは生産量4,100万ヘクトリットルで、引き続き世界最大のワイン生産国となる見通しだ。2025年比で8%減、5年平均を10%下回る。OIVによると、同国の収穫量は2000年以降で2番目に少なく、夏の高温と乾燥した天候が成熟を早め、収量を抑えた。

世界第2位の生産国フランスの生産量は3,650万ヘクトリットルとなる見込み。2025年比では2%増えるものの、5年平均をなお10%下回り、比較的低調な収穫が続く。OIVは、記録的な夏の高温や干ばつ、一部地域の春霜が生産に影響した一方、シーズン終盤の降雨により、一部地域では部分的な回復が見られたとしている。

第3位のスペインは、欧州の主要生産国のなかで比較的明確な回復を示した国の一つとなった。OIVは同国の生産量を3,260万ヘクトリットルと推定。2025年比で13%増え、5年平均を2%上回る。それでも、干ばつに見舞われた収穫年が数年続いたため、生産量は長期的な過去の水準を下回ると同機構は述べた。

その他の欧州生産国では、ドイツが800万ヘクトリットルと推定され、2025年比で6%増、5年平均を3%下回った。ポルトガルは670万ヘクトリットルで、2025年比12%増、平均を4%下回る見通し。ルーマニアは大幅な増加が見込まれる国の一つで、降雨により主要地域の土壌水分が回復したことを受け、生産量は460万ヘクトリットルと推定された。2025年比で40%増、5年平均を19%上回る。

中欧および南東欧の複数の国では、より大幅な減少が見込まれた。ハンガリーの生産量は180万ヘクトリットルと推定され、2025年比で31%減。オーストリアも180万ヘクトリットルで、30%減となる見通しだ。クロアチア、チェコ、スロバキアでも、高温と水不足を受けて収穫量が減少すると予想された。

EU域外では、米国が世界第4位のワイン生産国の座を維持する見通しだが、収穫量は引き続き低調となる。OIVは米国の生産量を1,900万ヘクトリットルと推定。2025年比で5%減、5年平均を18%下回る。主要なワイン生産州であるカリフォルニアでは、春先の温暖な気候でブドウの生育が早まった後、雨と強風により開花と結実が妨げられた。OIVは、ブドウの買い付けや収穫に関する判断の変化も、生産量の減少につながったとしている。

ロシアの生産量は540万ヘクトリットルと推定され、2025年比で6%減となるものの、5年平均をなお10%上回る。ジョージアは250万ヘクトリットルで、好調だった2025年とほぼ同水準、平均を17%

上回る見通し。モルドバは190万ヘクトリットルと推定され、2025年比で9％増、5年平均を29％上回る。実現すれば、同国にとって過去20年間で最も豊作な年の一つとなる。スイスの生産量は約80万ヘクトリットルで、2025年からおおむね横ばいとなる見込みだ。OIVによると、中国の2026年のワイン用ブドウ収穫量のデータはまだ得られていない。

年の早い時期にすでに収穫を終えた南半球では、生産量が4,700万ヘクトリットルと推定された。世界全体の生産量の21％に当たり、2025年比で3％減、5年平均を7％下回る。

南アフリカは生産量1,130万ヘクトリットルと推定され、南半球最大の生産国となった。2025年比で10％増、5年平均を14％上回る。OIVによると、シーズン序盤の好天と2月の降雨により複数の地域で水ストレスが緩和され、同国では過去10年間で最大の収穫量となった。この結果、南アフリカはアルゼンチンとオーストラリアを上回り、2026年の世界第5位のワイン生産国となった。

アルゼンチンは南米最大の生産国の座を維持したものの、収穫量は減少した。主要なワイン産地であるメンドーサで霜害と雹害がブドウ畑を襲ったことを受け、OIVは生産量を970万ヘクトリットルと推定。2025年比で10％減、5年平均を11％下回る。

チリの生産量は950万ヘクトリットルと推定され、2025年比で13％増となるものの、5年平均をなお13％下回る。OIVによると、高温と続く水不足が収量を抑え、同国では比較的低い生産量が3年連続となった。

オーストラリアの生産量は910万ヘクトリットルと推定され、2025年比で19％減、5年平均を23％下回る。OIVは、降雨不足、晩春の霜、熱波、局地的な洪水に加え、収穫の判断に影響したとみられる市場環境を要因に挙げた。ニュージーランドは320万ヘクトリットルと推定され、豊作だった2025年から15％減、5年平均を5％下回る。生産者は近年の豊作を受けて、生産量を調整している。

ブラジルは南半球で比較的好調な国の一つとなり、生産量は310万ヘクトリットルと推定された。2025年比で10％増、5年平均を22％上回る。ウルグアイは70万ヘクトリットルで、2025年比13％増、平均を7％上回る見通しだ。

OIVによると、2026年の数値は暫定値で、世界のワイン生産量の約95％を占める29カ国のデータに基づいている。公式データがそろっていない国については、2025年の生産量と最近の動向を用いて推計した。同機構は、2027年にさらに多くのデータが得られれば、数値を改定する可能性があるとしている。